



はこべら

学校教育目標：豊かな心を持ち、心身ともにたくましく、自ら学ぶ子どもの育成

響かせよう 響き合おう ～今に響け 未来に響け～

時津町立時津東小学校 学校だより 第3号

令和5年6月30日 文責：校長 村井 宏之

東っ子の心を見つめうる教育週間



六月十七日(土)～
二十三日(金)は「東
っ子の心を見つめ
る教育週間」でした。
「いのち」「平和」に
ついて、改めて考え
直す機会となりました。

初日の土曜授業に
は、たくさんの保護
者の皆様に参観いただきました。各学級、
「生命尊重」の道徳の授業を公開しまし
た。いかがだったでしょうか。それぞれの
学年にに応じて、命の大切さについて考え
ることができたようです。

月曜日の校長講話では、「**自分の命は自
分で守る**」という話をしました。東日本大
震災で大津波に襲われた釜石小では、子
供たちのほとんどは学校外にいたにもか
かわらず、自分で考え避難し全員が無事
だったそうです。「これは、子供たちが普段
学んだことをもとに、「自分で考え」行動
することができたからです。東小の子供
たちにも釜石小の子供たちのように、自
分の命を自分で守れる子になってほしい
と願います。「信号を守る」「飛び出しはし
ない」等、自分の命を守る方法は学んでい
ます。でも、できていないことがたくさん
あります。自分の命、周りの人の命を守る
ことにもっと、もっと真剣になってほし

いと願います。たった一つの「あなたの
命」「友達の命」を大切にして、生きてい
ってほしいと願うばかりです。

釜石市立釜石小学校校歌

作詞 井上 ひさし
作曲 宇野 誠一郎

いきいき生きる いきいき生きる
ひとりで立って まっすぐ生きる
困ったときは 目を上げて
星をみあげてに まっすぐ生きる
息あるうちは いきいき生きる



はつきり話す はつきり話す
びくびくせずに はつきり話す
困ったときは あわてずに
人間について よく考える
考えたなら はつきり話す

しっかりつかむ しっかりつかむ
まことの知恵を しっかりつかむ
困ったときは 手をだして
ともだちの手を しっかりつかむ
手と手をつないで しっかり生きる

最後に、釜石小学校の素敵な校歌を紹
介して終わりました。この校歌は、震災の
八年前に近隣の学校と統合した際につく
られました。避難所で毎朝歌われ釜石の
人々を勇気づけたそうです。一番はまさ
しく「力強く生き抜く」ことを伝えた歌詞
だと感じます。今回は二番、三番について
は話しませんが、子供たちが生き
ていく上で大切なことを伝えている気が
します。

学校サポーター活動

東小では、地域の方々、保護者の皆様
が、子供たちのため、学校のために支援
活動をしてくださる「学校サポーター
活動」が長年続いています。見守り隊を
はじめ、花咲かせ隊、丸付け隊、家庭科
支援隊、ごほんの会など、子供たちの成
長や安全のために、たくさんのお力を
貸していただいています。

土曜授業の日の午後に、サポーター
の皆様と打合せの会を開催し、今年度
の活動を確認しました。皆さん前向き
で、子供たち、学校への愛情に溢れてい
ました。サポートをしていただいたこ
とは子供たちにとって大きな支援とな
るのですが、それだけでなく、子供たち
が地域の方々の思いを感じ、感謝の気
持ちをもつことが彼らの成長により影
響を与えるものと感じます。

サツマイモのつるを植えました

先週は、花咲かせ隊の皆様が準備し
てくださった特別棟裏の畑に、一年生
がサツマイモのつるを植えました。荒
地だった土地の草を刈り、耕し、立派な
畑にしてくださいました。また、子供た
ちに丁寧にするの植え方を教えてくだ
さいました。地域の皆様のお力なく
して、続けられる活動ではありません。貴
重な経験ができることに、本当に感謝
です。子供たちは秋に花咲かせ隊のみ
なさんとお芋ほりができることを楽し
みしています。

「ティーチング・コーチング」

指導方法には大きく「ティーチング」「コーチング」の2種類あります。学校では「ティーチング」が主流です。簡単に説明すると、指示を出し、助言しながら人を育てるのが「ティーチング」、相手から答えを引き出し、その人の才能や能力を引き出すことが「コーチング」です。指導する場合、この二つを使い分けることが重要です。

新しいことを学ぶ上では「ティーチング」が有効です。指導する側は自分の技術を伝えます。（例えばフルートのプロが、吹奏楽部の生徒に楽器の吹き方を教えるようなもの）

一方、やったことのあることを指導する場合は「コーチング」が有効です。上手な言葉がけで、子どもの能力を引き出すことができます。

さて、ここで質問です。

「おなかが空いた子がいます。あなたは、食事を作ってあげますか？それとも、食事の作り方を教えますか？」

この質問、学習面、生活面などに置き換えることができます。この“ヘルプ（助ける）”と“サポート（支援する）”のどちらにするかは、年齢や場面によって異なります。高学年くらいになれば、ヘルプからサポートへの変換が、少しずつ必要になってきます。同じように「ティーチング」オンリーから徐々に「コーチング」を取り入れていくことが、子どもの自立につながります。

まずは、「禁止語…ゲームばかりしない!」「命令語…宿題しなさい!」を減らして、宿題をする時間を決めることや、当たり前のようにできていることに目を向けて、声をかけてみませんか？



特別支援NEWS

～発見！ 町中のユニバーサルデザイン～

ユニバーサルデザインとは、「あらゆる人に利用しやすいデザインである」という視点を軸に、下記7原則から構成されています。

- 1.誰にでも使えること。
- 2.使う上で柔軟性があること。
- 3.使い方が簡単で、直感的にわかること。
- 4.必要な情報がすぐにわかること。
- 5.簡単なミスが危険に繋がらないこと。
- 6.身体的な負担が少ないこと。
- 7.アクセス・利用しやすい十分なスペースが確保されていること。



こちらは密集を防ぐために、椅子の数を減らしたり、距離をとるようにとお知らせをのせたりしています。

右の写真はあるショッピングセンターのフードコートの様子です。上に書いた原則3と4に特化していると言えます。本校もあらゆる子どもに利用しやすい（わかりやすい）授業を目指しています。